

1 概要

年間4つの展示で、入館者は7845人となった(29年度5,684人、28年度7,010人)。「中村屋」「奈良」というよく知られた名前が人々の関心と呼ぶ要素の一つであることをうかがわせる結果とっていいだろう。特別展では東京新宿の中村屋サロン美術館の所蔵品を中心とした展示で1日平均38人、秋は奈良の仏像写真が興味を引いて1日平均35人の入館者があった。

【**展覧会**】 特別展「中村屋サロンと會津八一〜サロンにつどったアーティストたち」(平成30年6月28日〜9月2日)は、文字通り中村屋サロンに集い互いに刺激し合いながら自らの才能を開花させた若い作家たちの作品を一室に集めた。作家たちの支援を惜しまなかった中村屋創業者相馬愛蔵・黒光夫妻と會津八一の、愛蔵の長男をめぐる関わりや交流も作品や書簡で紹介し、深みのある展示になった。中村屋の所蔵作品が新潟にお目見えするのは約30年ぶりということもあってか関心は高かった。この展示は同サロン美術館との交換展という形をとり、同年秋には新宿で會津八一展が開かれ、これも好評を博した。夏は拓本で八一の書を拓本に

春の企画展「**文人と詩書画一致のモダニズム**」(4月10日〜6月17日)。詩(歌)を詠み書を能くし絵も描く—これを文人という。八一こそ文人、それも最後の文人といわれる。八一の書画をはじめ、八一と画家杉本健吉、八一と中田みづほの合作、さらには八一の詩書画に強く影響を受けた絵手紙の第一人者小池邦夫氏の作品を展示。八一の詩書画が現代の絵手紙に通じていることを紹介した。企画展「**奈良大和路の美**」(9月13日〜12月9日)は副題を<写真家小川光三の仕事>としたように、仏教美術作品を撮り続けた奈良・飛鳥園の小川光三の仏像写真と八一の奈良歌の書によって、一気に大和路の魅力を打ち出す展示とした。古都の雰囲気につかることのできる空間を演出できたのではないかと思う。仏像を大きく据えたポスターの人气が高かった。企画展「**八一を知る八一がわかる**」(12月20日〜31年3月24日)は、短歌・書・東洋美術史・教育と章を立て、多方面にわたる八一のマルチな業績を作品や書簡で紹介した。意外な一面をのぞかせるエピソードで八一の素顔も知ってもらえたと思う。

【**文芸講演会**】 東寺歌碑建立(30年3月27日)を記念し、**執事長砂原秀輝師**に依頼。砂原師は、八一の詠んだ東寺の歌にまつわる話を東寺の歴史とともに語った(8月1日=八一祭)。特別展関連で、中村屋サロン美術館学芸員の**太田美喜子氏**が中村屋創業者の相馬夫妻と若い芸術家との交流を(6月27日)、また大阪大学名誉教授の**原田平作氏**が美術史における中村屋サロン美術館の位置づけといった観点から(7月11日)それぞれ講演した。「奈良大和路」展にちなんで、仏教美術写真家の**若松保広氏**が師の小川光三の写真について(10月23日)、また奈良国立博物館長**松本伸之氏**が、奈良・大和路の歴史の中で生まれ今日まで伝わる仏像などの美術品の魅力について語り、聴衆を古都の世界にいざなった。新潟大准教授の**角田勝久氏**は、あまり知られていない八一の人となりに触れながら、良寛の書との比較で八一作品が持つ独特の世界を解説した(31年3月1日「八一を知る八一がわかる」展関連)。

【**体験講座**】 春は**絵手紙講座**で詩書画の世界を楽しんでもらい、夏は、歌碑に刻まれた八一の文字などを「**拓本**」にとることによってその味わい深さを感じてもらった。

【**第12回秋艸道人賞写真コンテストと作品展**】 応募147点(前回151点)、応募者数96人(前回=同)と、いずれも前回並みを維持した。県外の応募者の割合が全体の3分の1を占めた(前回は4分の1)。入賞入選作品の巡回展は東京や奈良のほか、前年に初めて開いた京都の三千院(8月)と高松市内(10月)の2カ所で引き続き開催。また上越市内でも開催できた。記念館では冬の企画展と同時開催した。

2、事業の内容

(ア) **展覧会事業** 常設展経費3,654,921円(29年度=3,223,801円=比13%増)。特別展経費4,101,869円(29年度=3,649,789円=比12%増)。

	29年度 入館者数	29年度 開催日数	30年度 入館者数	30年度 開催日数	30年度 入館累計
4月	360	24	355	20	355
5月	541	27	641	26	996
6月	493	26	530	19	1526
7月	519	20	723	26	2249
8月	419	27	1081	27	3330
9月	326	21	677	18	4007
10月	709	22	810	26	4817
11月	897	26	996	26	5813
12月	393	14	505	15	6318
1月	308	24	311	24	6629
2月	255	24	532	24	7161
3月	464	21	684	20	7845
合計	5684	276	7845	271	

30年度観覧料収入=総額2,567,340円(特別展779,120円 常設展1,788,220円)

(イ) 展示事業

【特別展】「中村屋サロンと會津八一」ーサロンにつどったアーティストたちー

会 期：平成30年6月28日(木)～9月2日(日) 開催日数59日間

会 場：新潟市會津八一記念館

入館者数：2, 219人

(前年度=29.10.6～12.10 「禅 ZEN」早稲田大学會津八一記念博物館 富岡コレクションを中心に1,911人)

主 催：公益財団法人會津八一記念館、新潟市、新潟日報社、BSN 新潟放送

特別協力：株式会社中村屋

協 力：浅川園、今成漬物店、大阪屋、里仙、高橋酒造

後 援：読売新聞新潟支局、毎日新聞新潟支局、朝日新聞新潟総局、産経新聞新潟支局

日本経済新聞社新潟支局、共同通信社新潟支局、時事通信社新潟支局

NHK 新潟放送局、N S T、TeNY テレビ新潟、UX 新潟テレビ 21

東京・新宿中村屋サロン美術館との交換展。會津八一は大正から昭和にかけて新宿中村屋の創業者相馬愛蔵・黒光夫妻と深い関わりがあった。特別展では、中村屋所蔵の八一の墨蹟の名品、中村屋に集った芸術家の秀作などを展示し、「中村屋サロン」の芸術を紹介した。中村屋の所蔵品を新潟で披露したことで関心呼び、とくにサロンメンバーの中心的人物だった荻原守衛の彫刻、中村彝の油絵といった作品が好評だった。

アンケートでは、5回以上の来館者が3割。八一ファンを取り込めたともいえる。広報媒体ではテレビ、ラジオでCMを放送しその効果も表れたと思われる。新聞は、例年通り日報朝刊の写真特集で、夕刊は読者プレゼント提供という形で誘客効果を狙った。また、期間限定で中村屋製カリーのプレゼントも実施し、来館者の関心を深めた。期間中、東寺歌碑建立を記念した拓本体験講座も実施し、八一の書をより身近に感じてもらう契機となった。

開催期間後半は学校の夏休みと重なったが、学生の来館者数はごくわずかであった。学校への働きかけをするためには、子供向けのワークショップを企画するなど、より一層工夫が必要であろう。(図録発行)

【企画展】=記念館自主企画

① 文人と詩書画一致のモダニズム

会 期：平成30年4月10日(火)～6月17日(日) 開催日数61日間。(簡易図録発行)

入館者数：1, 364人(前年度=春「書人 會津八一 その制作の現場」1,472人)

「文人」と「詩書画」をテーマに、會津八一を軸として、近世ー現代の系譜をコンパクトにまとめて紹介した。導入部として早稲田大学會津八一記念博物館が所蔵する八一旧蔵の江戸時代の文人書画作品を展示した。そして、八一の書画作品と併せて、文人の系譜を継ぐ人物として、世界的脳外科医・俳人の中田みづほ(1895～1975)など、八一と交流があった人物にも焦点を当てた。さらに、日本絵手紙協会、小池邦夫氏の協力のもと、現代の文人画ともいえる「絵手紙」も取り上げた。難解と思われがちなテーマだが、「絵手紙」を含めて紹介することで、現代の来館者に少しでも身近に感じられる工夫を試みた。昨年度春の展示アンケートと比較すると、県外来館者の割合が8ポイント、初めての来館者が17ポイント、ともにアップし、新たな来館者を取り込めた。日本絵手紙協会からは会報誌『月刊絵手紙』に展覧会チラシを入れていただくなど、広報面で協力、連携を図った効果もあったようである。

② 奈良大和路の美 写真家・小川光三の仕事と飛鳥園

会 期：平成30年9月13日(火)～12月9日(日) 開催日数76日間。(簡易図録発行)

入館者数：2, 659人(前年度=夏「式場麻青コレクション 芝蘭の交わり～八一と麻青の書画～」1,186人)

會津八一が愛した奈良大和路の美と魅力を、彼の歌書作品と、株式会社飛鳥園の写真家だった小川光三(1928～2016)の作品で紹介した。小川光三は戦後の文化財写真、仏像写真の第一人者として知られ、秋艸道人賞写真コンテストの審査員を務めるなど、当館の活動を長年にわたり支えてくれた写真家である。知名度は一般的に高いとは言えないが、光三の写真は八一の歌書との相性が良く、響きあう面も多い。これまで当館では、光三の父で八一と交流があった小川晴暘や、入江泰吉の仏像写真を紹介してきたが、それらに引き続いて八一作品と仏像写真の相互の魅力を提示できたと思う。来館者アンケートでは、展示満足度95%と高い評価があったほか、ポスターを見て来館した人の割合が昨年度秋と比べ6ポイント増えた。仏像(十一面観音像)の横顔を大きく捉えた小川光三の写真を用いた広報(チラシ、ポスター、新聞広告)が大きな効果を挙げたと言える。

③ 八一を知る 八一がわかる ーそのマルチな業績と人生ー 同時開催 第12回写真コンテスト入賞入選作品展

会期：平成30年12月20日(木)～平成31年3月24日(日) 開催日数75日間。(簡易図録発行)

入館者数：1, 603人

(前年度=冬 吉野秀雄没後50年記念「會津八一と吉野秀雄」～師として弟子として～

同時開催 第11回写真コンテスト入賞入選作品展 1,115人)

当初計画していた「篠田桃江と會津八一」展が諸事情により中止となり、急きよ、八一そのものに焦点を当てた

展示を企画した。〈書〉〈歌〉〈東洋美術〉〈教育〉のテーマに分けて八一の書画作品や人柄をしのぶ資料なども展示した。アンケートには「いろいろな側面からみた八一のことが分かり興味深かった」など、作品や資料を通じて知られざる八一の一面を知ったことで彼の人間性に親しみを覚えたというコメントが多く寄せられた。同時開催の写真コンテスト展もよかったとの感想が寄せられた。おおむね来館者には満足してもらえたように思う。一方、展示ケースの床に置いてあるキャプションは、「見下ろす形で見にくい」との苦情もあった。時折寄せられていた意見で、新年度から高さ30センチほどの台を購入し、活用している。(簡易図録発行)

(展示に対する評価) = 入館者アンケート結果 (○は好評、△は不評)

回答者数 591 名 (回答率 7.5%)

展覧会名	作品解説の評価		展示量の評価		全体的評価	
詩書画一致	○ 92%	△ 8%	○ 80%	△ 16%	○ 92%	普通 5%
中村屋サロン	○ 87%	△ 5%	○ 79%	△ 17%	○ 93%	普通 3%
大和路の美	○ 87%	△ 8%	○ 80%	△ 18%	○ 95%	普通 3%
八一がわかる	○ 92%	△ 4%	○ 84%	△ 14%	○ 90%	普通 8%
合計	○ 89%	△ 6%	○ 80%	△ 16%	○ 93%	普通 5%

(接客に対する評価) 良い 61% 普通 34% 悪い or 無回答 5%

★総括= アンケート結果はほぼ例年並み。昨年度よりも来館者が増えたが、割合はほぼ同じ。

(主な来館者) ※当館理事、評議員は除く

- ・ 4 月 = 江戸千家家元・川上宗雪氏、中野宗順氏 (15 日) 滋賀県高校教諭中川英樹氏 (21 日)
雪国館館長貝瀬氏 (27 日)
- ・ 5 月 = 書家伊藤省風、路可氏 (2 日)、エフエム新津大澤若奈氏 (6 日) 絵手紙作家小池邦夫氏、谷雅子氏 (11 日)
棟方志功の孫・石井頼子氏 (13 日) 東寺拝観課長山下泰永氏 (16 日)、青幻社企画事業部長田中壮介氏、執行役員中川良一氏 (17 日)、中田瑞穂の孫、中田あき子氏 (18 日)、巻菱湖記念時代館磯島瑛俊氏 (25 日)、新潟大学旭町資料館館長橋本氏 (29 日)
- ・ 6 月 = 小林しげき氏 (奈良一区衆議院議員)、タカヨシ渡辺氏 (1 日)、書家、今井昭友氏 (6 日)、青幻社中川氏、福光文化協会会長尾山章氏、三越伊勢丹呉服・美術統括小川貴史氏 (12 日)、全国良寛会会長長谷川義明氏 (14 日)、中村屋サロン美術館副館長小林政志氏、太田美喜子学芸員 (27 日)
- ・ 7 月 = 中村屋サロン美術館館長・鈴木達也氏、同事務長・河野奈美江氏 (3 日)、新潟放送会長竹石松次氏、新潟放送井上美保子氏 (5 日)、胎内市南都屋主人 (6 日)、新潟美術学園佐藤やよい氏 (7 日)、大阪大学名誉教授、原田平作氏 (11 日)、洋画家西村満氏 (13 日)、郷土史家山本修巳氏 (14 日) 新潟日報岩本潔報道部長、新潟眼鏡院上田氏、画家池田美弥子氏 (20 日)、東寺執事長砂原秀輝氏、小宮大良氏 (31 日)
- ・ 8 月 = 樋口記念館館長中島榮一氏 (2 日) 写真家齋藤日出子氏 (5 日)、狂言師湯田拓也氏、名古屋女子大学教授林和則氏 (7 日)、濱谷浩著作権管理者多田氏 (8 日)、万葉洞・大浜正氏、二玄社出版部主任大島直樹氏 (10 日)、コスモス短歌会宮尾光子氏 (22 日)、桜井甘精堂会長桜井佐七氏 (25 日)、東京国立博物館秋元郁美氏、江戸文化研究家河治和香氏 (31 日)
- ・ 9 月 = 飛鳥園カメラマン若松保広氏 (7 日)、新潟大学講師清水文博氏、東京国立博物館学芸部長富田淳氏 (14 日) 写真家鈴木孝枝氏 (15 日)、元帝塚山大学図書館司書和田博一氏 (22 日)、書家荒川希伊氏 (27 日)
- ・ 10 月 = 文芸春秋ノンフィクション編集局長下山進氏 (10 日)、安宅安五郎の孫太田光子氏、森鷗外の孫森哲太郎氏 (14 日)、俳優松村雄基氏 (18 日)、書家池田勢峰氏 (20 日)、新潟市歴史博物館元館長小林昌二氏 (26 日) 東京大学教授・本郷和人氏、タレント・林修氏 (27 日)
- ・ 11 月 = 中国総領事孫大剛氏、大阪大学名誉教授、上倉庸敬氏 (8 日)、奈良国立博物館管長松本伸之氏 (16 日)、脚本家大江隆子氏、飛鳥園社長小川光太郎氏 (22 日)、八一門下生の娘岡井一子氏 (25 日)、写真家浅井慎平氏 (27 日)、ソプラノ歌手柳本幸子氏 (30 日)
- ・ 12 月 = 奈良・聖林寺住職御夫妻、燕市産業資料館齋藤優介氏 (8 日)、落語家 5 代目桂三木助氏、元新潟県立近代美術館館長徳永健一氏、シティガイド神田剛氏 (20 日)、書家江川蒼淵氏 (21 日)

- ・31年1月＝漆芸家渡辺信二氏（5日）、NSG美術館副館長（6日）、新潟県政策課長森永正幸氏、課長補佐佐藤健一氏、広報監杉山秀人氏、高橋道映相談役（23日）
- ・2月＝胎内市教育長中澤毅氏、書家原奈緒美氏（2日）、新潟国際情報大学学長平山征夫氏（10日）、良寛研究家小島正芳氏（14日）、大韓民国総領事鄭美愛氏（16日）、NST村山相談役、絵手紙講師檜原氏（28日）
- ・3月＝北方文化博物館学芸員田中氏（1日）、考古堂社長柳本雄司氏（17日）、ドナルド・キーンセンター吉田真理氏（19日）、ギャラリー81オーナー吉村光氏、書家柳沢魁秀氏（20日）

（ウ）講演会事業

【記念館自主企画】

- ①八一祭記念講演会（有料 500円）
 テーマ：「東寺の歴史と會津八一」
 講師：砂原 秀輝師（東寺執事長）
 日時：平成30年8月1日（水）午後1時半～3時
 会場：日報ホール
 入場者：121人
- ②特別展記念講演会 1（有料 500円）
 テーマ：「中村屋創業の相馬愛蔵・黒光夫妻と若き芸術家たち」
 講師：太田美喜子氏（中村屋サロン美術館学芸員）
 日時：平成30年6月27日（水）午後1時半～3時
 会場：日報ホール
 入場者：135人
- ③特別展記念講演会 2（有料 500円）
 テーマ：「近代日本美術史と中村屋サロンに集った作家たち」
 講師：原田平作氏（大阪大学名誉教授・公益財団法人穎川美術館理事長）
 日時：平成30年7月11日（水）午後2時～3時30分
 会場：日報ホール
 入場者：85人
- ④特別展関連 体験講座
 テーマ：會津八一・良寛の書を味わおう「拓本と表装 体験講座」
 講師：角田勝久氏（新潟大学准教授）
 日時：平成30年8月18日（土）午前10時～午後4時50分の間 5回実施（1回1時間程度）
 会場：會津八一記念館 会議室
 参加者：27人
- ⑤企画展関連 第1回文芸講演会（有料 500円）
 テーマ：「會津八一と絵手紙」
 講師：神林恒道当記念館館長
 日時：平成30年5月11日（金）午後2時～3時30分
 会場：日報ホール
 入場者：66人
- ⑥企画展関連 体験講座
 テーマ：絵手紙体験「にいがたを描く」
 講師：谷雅子氏（日本絵手紙協会公認講師）
 日時：平成30年5月11日（金）午前10時半～12時
 会場：日報ホール
 参加者：31人

⑦企画展関連 第2回文芸講演会（有料 500円）

テーマ：「奈良飛鳥園の写真」

講師：若松 保広氏（飛鳥園カメラマン・写真コンテスト審査員）

日時：平成30年10月23日（火）午後2時～3時30分

会場：日報ホール

入場者：70人

⑧企画展関連 第3回文芸講演会（有料 500円）

テーマ：「奈良大和路の美術と魅力」

講師：松本伸之氏（奈良国立博物館館長）

日時：平成30年11月16日（金）午後2時～3時30分

会場：日報ホール

入場者：151人

⑨企画展関連 第4回文芸講演会（有料 500円）

テーマ：「會津八一と良寛の書、どちらが好きですか？」

講師：角田勝久氏（新潟大学准教授）

日時：平成31年3月1日（金）午後2時～3時30分

会場：日報ホール

入場者：179人

（エ）普及活動事業

①作品解説会

○新潟市會津八一記念館企画展＝講師：喜嶋、湯浅学芸員

企画展会期中 第2、4日曜日 午前11時～正午

特別展会期中 毎週土・日曜日 午前11時～正午

②出前講座＝その他の団体主催による講演

・7月19日（木）新潟日報政経懇話会 講演「長岡の文化力」

主催：新潟日报社 会場：会館青善（長岡市）

講師：神林館長 70人

・9月4日（火）講演「會津八一という生き方」

主催：阿賀野川河川事務所OB会 会場キャトルセゾン（新潟市秋葉区）

講師：高岡事務長 50人

・11月15日（木）市政さわやかトーク便 講演「會津八一の魅力」

主催：上山小学校区民生委員児童委員協議会 会場：じょいあす新潟会館

講師：喜嶋学芸員 17人

・11月18日（日）講演「會津八一と奈良」

主催：會津八一の会 会場：奈良県斑鳩町法隆寺iセンター

講師：神林館長 60人

・11月20日（火）講演「會津八一の魅力」

主催：よつ葉大学 会場：胎内市築地農村環境改善センター・築地地区公民館

講師：湯浅学芸員 50人

・平成31年1月11日（金）講演「會津八一について」

主催：中条會津八一会 会場：胎内市立胎内小学校

講師：喜嶋学芸員 55人

・2月23日（土）講演：「中村屋サロンと會津八一」

主催：荻川コミュニティ振興協議会生涯学習部 会場：荻川コミュニティーセンター

講師：喜嶋学芸員 45人

・3月16日（土）講演：「名誉市民 會津八一の魅力 ～そのマルチな業績と人生」

主催：新潟シティガイド 西大畑エリア担当

講師：喜嶋学芸員 20人

③所蔵品貸出展覧会

- ・「-信仰と美の出会い- 棟方志功の福光時代」 所蔵品 3点貸し出し
7月7日(土)～8月26日(日) 釧路市立美術館
12月26日(木)～平成31年1月7日(月) 日本橋三越本店
平成31年3月29日～5月6日(月祝) 鹿児島市立美術館
- ・「独往の人 會津八一展」
9月15日(土)～12月9日(日) 所蔵品 25点貸し出し 中村屋サロン美術館
- ・「良寛再発見」
平成31年2月22日(金)～3月21日(木・祝) 所蔵品 1点貸し出し にいがた文化の記憶館

④ 第11回秋艸道人賞写真コンテスト入賞入選作品 巡回展

会場	開催期間	備考
1 奈良県立図書情報館	4月17日～26日	入賞入選 30点
2 中村屋サロン美術館	5月19日～7月16日	入選入賞 30点、過去大賞 10点
3 いかるがホール(奈良県斑鳩町)	7月21日～8月10日	入賞作品 6点
4 三千院(京都市)	8月12日～26日	入賞作品 6点
5 高田まちかど交流館	9月1日～17日	入賞入選 30点
6 高松市市民活動センター	10月1日～30日	入賞入選 30点、八一作品(複製)
7 胎内市産業文化会館(中条會津八一會)	11月9日～11日	入賞入選 30点

⑤出版関係

- ・八一往復書簡集「雁魚来往」第6集の刊行
編者：雁魚来往研究会(近藤悠子氏、角田勝久氏)
発行：會津八一記念館
形状：A4判 110頁
収録：中村屋の人々(創業者の相馬家、中村屋社員小泉三一郎)と會津八一との往来書簡の読み下し文、註釈、関連資料図版を掲載。
- ・會津八一歌碑【奈良・京都編】のパンフレットの刊行
編者と発行：會津八一記念館
形状：A5判 48頁
内容：奈良県内および京都市にある會津八一自詠自筆の歌碑21基の解説と写真、奈良県内の歌碑マップ、八一の随筆や奈良におけるスナップ写真を収録
- ・写真でたどる會津八一の生涯のパンフレットの刊行
編者と発行：會津八一記念館
形状：A4判 8頁
内容：八一の生涯を年代別に解説、肖像写真、作品画像を収録

⑥その他

- ・博物館実習受け入れ
期間：平成31年1月13日(日)～19日(土)
学生：新潟大学教育学部芸術環境創造課程書表現コース 4年生 2人

(オ) 学習講座(参加者負担)

- ・會津八一の歌を読む会 講師：若月忠信氏(文芸評論家)
砂丘館 毎月第1土曜日 受講者 18人

(カ) イベント

「會津八一の歌を映す」第12回秋艸道人賞写真コンテスト（総事業費 2,996,655 円）

- ・公募期間 4月から11月（作品搬入11月3日～14日）
- ・応募点数 147点
- ・応募人数 96人（県内64人 県外32人）
- ・審査委員 浅井慎平（委員長）、若松保広、和泉久子、神林恒道の4氏
- ・審査会 11月27日（火） 14時～17時 メディアシップ 2階 日報ホール
- ・審査結果 秋艸道人賞に新潟県加茂市の星正一さん
奨励賞は6点（県内4人、県外2人）、入選は23点（県内17人）
- ・記者発表 11月28日（水） 午前10時～
新潟県庁内の県政記者クラブ 浅井委員長、神林館長、高岡事務長
- ・授賞式 作品講評会＝審査委員と受賞者の対話方式（入場無料）
31年2月2日（土） 午後2時～4時 ホテル日航新潟 参加人数80人
祝賀会（会費制） 午後4時30分～6時30分 ホテル日航新潟 参加人数50人

(キ) 鑑定会（経費 223,816 円）

春の部 平成30年 4月29日（日） 総点数20点 認定数 15点 収入650,000円
秋の部 平成30年 11月18日（日） 総点数14点 認定数 10点 収入440,000円

(ク) 新収蔵品

- 寄贈 會津八一の墨蹟 7点
會津八一書簡 1通（新潟県中条町中条駅長宛書簡）
横尾深林人の書画 3点
乗馬姿の八一の写真 1点
小泉八雲の肖像写真 1点

合計13点

○購入 會津八一草稿「龍安寺」（折帖・原稿用紙5枚・ペン字）

(ケ) 販売活動

- ・「学規」割引セール 実施期間30年度（30年4-5月、31年2-3月）
額装3点 未表装3点 色紙23点 販売合計94,344円

(コ) 広報活動

①新聞

- [新潟日報] 記事123回（展覧会紹介、講演会募集、特集など）
広告朝刊85回、夕刊32回（複製学規33回 展覧会84回、写真コンテスト4回）
- [産経新聞] 記事1回
- [中国新聞] 記事2回
- [交通新聞] 記事1回

②テレビ、ラジオ

[BSN新潟放送]

○特別展「中村屋サロンと會津八一」

- ・ラジオ告知 開催中（8/9～9/29） 20秒 61本
- ・テレビ告知（213本）
内訳＝前売り券販売期間中（6/12～6/27） 15秒 46本
開催期間中（6/28～9/2） 15秒 167本

・テレビニュース

6月27日(水) 18:15頃～19:00 BSNニュース「ゆうなび」

6月28日(木) BSN朝ニュース

特別展開催前日に行われた開場式の模様と会場内の様子、担当学芸員のインタビューを放送

○企画展「ハ一を知る ハ一がわかる」

・ラジオ告知 開催中告知(1/17～3/24) 20秒 211本

・ラジオ番組特集

31年2月28日(木) 13:00～14:29生放送(出演時間14:20～14:25)

「ゴゴイチinメディアシップ」約10分

企画展「ハ一を知る ハ一がわかる」について。高岡事務長出演(メディアシップ内スタジオ)

・テレビ告知 開催期間中(1/17～3/24) 15秒 222本

③市報にいがた

展覧会、講演募集=6回

(サ) 学校団体見学

25校415人=小学校2校、中学校21校、高校2校

(H29年度=22校437人=小学校3校、中学校13校、高校6校)

4月19日 新潟市立宮浦中4人

24日 新潟市立関屋中19人、同大江山中4人

26日 福島・磐梯中5人

27日 新潟市立東新潟中26人、同岩室中5人

5月9日 新潟市立亀田中5人

15日 新潟市立白根第一中67人

18日 新潟市立山の下中5人、同坂井輪中22人、同潟東中4人、同白井中9人、東京学館42人、

25日 新潟市立木戸中19人

6月13日 新潟清心女子高校20人

29日 会津美里町・本郷中13人

7月10日 新潟市立小針中41人

11日 会津坂下中6人

20日 新潟市立高志中等学校6人

10月19日 新潟市立中之口中10人

30日 新潟市立下山中5人

11月16日 新潟市立濁川中13人

28日 新潟市立新津第二中11人

平成31年

1月18日 長岡市立上川西小学校 30人

3月1日 新潟市立青山小学校 24人